

東京富士大学短期大学部

評価短期大学の概要

設置者 学校法人 東京富士大学
理事長 二上 貞夫
学 長 岡村 一成
A L O 井上 良雄
開設年月日 昭和 26 年 4 月 1 日
所在地 東京都新宿区下落合 1 - 7 - 7

設置学科および入学定員

学科	専攻	入学定員
経営		150
	合 計	150

専攻科および入学定員

なし

機関別評価結果

1. 機関別評価結果

東京富士大学短期大学部は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成 18 年 3 月 23 日付で適格と認める。

2. 機関別評価結果の事由

東京富士大学短期大学部は、昭和 26 年に富士短期大学として設置され、平成 14 年に東京富士大学を開学すると同時に、同大学短期大学部と校名を変更した。現在は、経営学科を有する単科の短期大学である。

「建学の趣旨」として、「大愛の涵養に務むること」、「正義の顕揚を図ること」、「文化の向上に資すること」を掲げ、教育理念として「建学の趣旨に則って、『人道による世界平和』実現の理想のもとに、社会に貢献できる有為の人材を育成するために、時代に即した『人間教育』を行う。すなわち、社会科学教育によって職業ならびに社会生活において必要とされる能力を育成するとともに、幅広い教養教育によって判断力を養い、かつ品位の向上を図って、人間性豊かな社会有為の人材を養成する総合教育を行う」こととしている。

平成 17 年 1 月 20 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

建学の精神に沿った教育理念が確立しており、共有化を目指した様々な取り組みが多く見られる。教育目的・教育目標に関しても明確に示され、それらが非常勤講師を含め教職員・学生に共通に理解されるように努力している。

教育の内容、教育課程は、建学の精神と教育理念に沿って考えられており、教育の目標を実現すべく構成されている。四年制大学設立に伴う見直し後の教育目標に沿って、経営関連の基礎科目をベースにおいて、資格取得や実務を対象とした科目群が整備されている。また、教養科目も下限が設定される等、教育目標実現のためのバランスの維持が図られている。

学生に対する支援体制は整備されている。

研究や教育実践の成果報告及びその奨励は概ね適切に行われており、研究費は、科目別

に十分支給され、また発表機会も多い。さらにデータベース検索等のシステムも構築されており活発な研究活動を行うための条件は十分整備されている。

社会人入学、公開講座、生涯学習としての社会人向け講座等、地域社会に向けた教育を積極的に展開している。学生の社会貢献に対する評価も具体的に単位認定という形で積極的に行われている。

理事会、評議員会をはじめ基本的な学校運営は問題なく行われており、教学に関しても学長のリーダーシップの下、教授会を中心に運営されている。

財務に関しては、今後さらに帰属収入の確保、消費支出の削減等に向けての努力が望まれる。

自己点検・評価の実施体制としては、教学専門部と管理専門部を下部機関とする自己点検・評価委員会を平成4年に設置し、第三者評価を受けるに当たって「実施要綱」を定め本格的な活動を開始した。自己点検・評価報告書の管理部門については、大学機関誌等で公表している。

3. 優れている点及び向上・充実のための課題

(1) 優れていると判断される事項

評価領域 教育の内容

- ・ より実学志向を強め、広く自己開発科目を設けるなど、資格取得を支援するための授業時間割上の工夫が見られる。

評価領域 学生支援

- ・ 施設面において、障害者の受け入れ体制が十分に整備されている。
- ・ 「コミュニケーションアワー」を設定し、その中でクラブ活動、学校行事、資格取得等学生のキャリア形成に役立てようとしている。

評価領域 研究

- ・ 共同研究制度や学術研究会、研究発表補助金等、種々の研究奨励策がとられている。

評価領域 改革・改善

- ・ 自己点検・評価の結果とファカルティ・ディベロップメント(FD)研修を結び付ける努力が見られる。

(2) 向上・充実のための課題とその事由

評価領域 教育目標の達成度と教育の効果

- ・ 教育目標の達成度の観点から、卒業率を高める工夫が望まれる。

評価領域 社会的活動

- ・ 国際交流への取り組みが十分でないので、建学の趣旨に則って改善が望まれる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし